

令和8年度 第1回 会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 要旨

日時：令和8年6月24日（水）9：30～11：30

場所：会津若松市役所本庁舎 5－3会議室

- 1 開会
- 2 自己紹介
- 3 協議

(1) 情報共有

会津大学短期大学部 木谷准教授を座長として進行する。

○ 生成 AI の活用について

昨年あたりから、レポート作成等で生成 AI を使用する学生が増えた印象がある。普段から学生と接していると生成 AI を使用したかはある程度見分けがつく。

一方で、人材採用の場面では応募者が AI をフル活用してくることが想定されるため、今後はより対面で会って話す機会や、知識・能力を直接試すことが必要になると考えられる。

また、10 年ほど前は、生まれた時から IT に接している「デジタルネイティブの若者」が社会に出るということで話題となったが、今後数年で「生まれた時から生成 AI を使っている世代」が出てくる。

この世代には、情報の取り扱いを十分に教育しておかないと、何でも生成 AI に入力するなどして、会社の機密情報が漏洩するリスクが高まる可能性がある。

○ プレミアム商品券について

今年、参加店舗数が 750 店舗を超え、去年並みに実施できる見通しとなった。一方で、商工会議所の会員が減少している中で、昨年と同じ店舗数を維持できていることについては、物価高騰による買い控えの中、何とか売り上げ確保をと望む事業主が多いことと思われる。

また、以前は買い物の「ついで買い」や余計な支出が多かったが、昨年から消費の傾向が大きく変わり、生鮮食品や生活必需品など必要なものだけを購入するケースが増え、余計な支出が減っている。商品券自体は使われているものの、それによる経済の波及効果が確実に小さくなっており、「余計なものも買ってほしい」といった商店主からの声も聞かれた。

○ 催事での消費者意識について

先週、仙台駅前の AER ビルで産業振興財団からの依頼による催しに参加した。

会津の伝統工芸品や日常品などを 2 日間販売したが、出店テナントの約 8 割が食品関連で、伝統工芸品等は少数であった。こけしをチェスにした「こけす」など、高校生のアイデアから生まれた人気商品もあった。

来場者の約 7～8 割は食品売り場に行き、日常雑貨などは、見ても必要がないからと購入に至らないケースが多かった。仙台の客層は 30～40 代の夫婦が多く、食品には積極的に購入するが、物づくりには手を出さない。子どもの希望で仕方なく買う場面も見受けられた。

ワークショップでニッパーを使う場面では、親が「危ない」と止めることが多かった。AI に頼るか否かも同様に、危険を避けるだけでなく、どうしたらできるかを考える力を子供のうちから育てる必要性を感じた。物づくりに関わる身としては、できないだけではなく、「どうしたらできるか」と考えることが普通。

○ 社会での若者の役割と会津の魅力発信について

先週金曜日、会津青年会議所主催で国会議員の上杉謙太郎氏を招き、講演を行った。

上杉議員からは、「どの時代も若い人が社会を作ってきた」と話があり、戦国時代や戊辰戦争でも若者が活躍していたという話があった。上杉議員は会津出身でないからこそ、外側の視点で見ていて、地域活性化のためには、若い人が住みやすい環境を作ることがとても大切で、青年会議所のメンバーも国に積極的に提案していくべきだとの意見が出た。

また、人口減少の問題は江戸時代から続いているらしく、どうしようもない部分もあるので、どれだけ地域が外貨を稼ぐようになるかが大切。だからこそ、インバウンドや観光など、海外の人を日本に呼び込むことから始めないといけない。会津は魅力や資源があるので、もっと発信してブラッシュアップしていかないと埋もれていく。国としてもやっていくけど、地元の人が産学官連携していくことが大切だという話があった。

○ 会津コイン還元事業について

プレミアム商品券の話が出たが、7 月 1 日から会津コインの還元キャンペーンが始まったので、知り合いの方に勧めいただきたい。傾向としては日常用品、食品で使われる方が多いと想定されるが、飲食店にも行っていただきたいので、地元のお店に行くきっかけになればと思う。

(2) 意見交換

- ・事務局から未来会議の役割と令和7年度の協議経過を説明後、協議を行った。

○ 進め方について

- ・協議した内容を可視化し、市でやるべき取組は市の施策に反映して取り組んでいきたいと考えている。市だけではなく、金融機関や企業が自ら取り組めることなど、ビジョンみたいな形でまとめて、重点的にこれに取り組んでいこうと言葉にして可視化し、フィードバックと改善を繰り返していきたい。

- ・中小企業小規模企業振興条例の第1条に本市経済の発展及び市民生活の向上に寄与するとあるので、反映されないと意味がない。

- ・総合計画を立てているところなので、そこと整合性持っていないといけない。

- ・総合計画には反映したいと思っている。市の施策はそうだが、市だけで取り組むということではないのがこの中小企業振興条例なので、それぞれの立場で何ができるのかを改めてまとめていきたい。

○ メンバーについて

- ・ここで話したことが政策に反映されるということは、非常に重要な機関であることだが、メンバーがこれだけでよいのかと思う部分もある。中小企業などの各企業の取組む部分は、ここで話して答えが出るのかと疑問。ここに参加する方はそれぞれの気づきを得られると思うが、それを中小企業が取り組んでいくべきとなったときに、民間事業者は同じベクトルをもって取り組めるのか。

- ・今のメンバーはコアメンバーだけだが、三条市のみらい人材会議では、誰でも参加できる仕組みを取っており、毎回80人程度が参加し、様々なテーマについて意見を出し合って、活発に協議している形を取っている。話し合いの中で、この形が良いのかどうかも含めて、検討していきたいと思う。

○ 今後の取組について

- ・人材のテーマについては、例えば企業で何ができるのかというと、就労環境で社員が幸せであることが大事という視点がある。これは行政には難しい部分であり、企業だからこそ取り組めること。企業の中で何ができるかを考えながら、実際に取り組みを進めていきたい。

- ・課題を可視化し、解決策を決めても、社会情勢などによって状況は変化し、内容も微妙に修正しながら進めていく必要があると思う。

- ・日々の業務の中で、取組を参考にしながら事業者へ話をすることはできるが、全体に広めて、各事業所で同じ方向性で取り組んでもらうことは、周知方法も含めて難しさがある。最終的には、何らかの強化や連携といったものを目指すことになるが、一つの取

り組みを実行するだけでも大変。文章で書くことは簡単だが、実際に行動に移すことは非常に難しく、それが大きな課題である。

- ・まずは、できることからやっていきたい。一番は、同じ方向を向いて取り組めること。今はそれぞれの頭の中にそれぞれの振興のイメージがあると思うが、“会津若松市はこれから中小企業の振興をこう目指していくんだ”というものを、一つ明確に示すことができれば、その後の取組は、時代に併せて変わっていく。

- ・あれもやろう、これもやろうではなく、会津若松市は観光で食べている街。観光といっても、観光業者だけでなく、飲食業や金融機関、問屋もある。全業界が観光に関わっている。観光でやるためにはどうしたらいいかというときに、観光に特化してどういうことを考えるべきかというのを、各種団体から数名でもいいので、集めてやったほうが身になると思う。会津若松市は観光で食べているということを頭の中に入れて、市の政策など考えた方がいい。

○意識改革について

- ・観光地で食べているところはお客さんが来るから黙って座っている。自らイベントにいったりなど行動して外に出ないといけない。観光地だからお客さんが来るという時代じゃないので、どんどん出て行って地元の産業や伝統をアピールして、観光客を迎えるにはしっかり観光の政策をしなくてはいけないと思う。

- ・観光で言うと、地元の人がこの街を誇りに思って、いいところを発信しないと結びつかないので、地元の小さいお店や企業がとても大事だと思う。その意識が、観光客や住んでいる人の満足度につながる。

- ・前回までの意見で、意識改革や、教育の部分で外を見て意識改革していくという意見が出ていたので、そこを深めていくと解決策が導き出せるのではないかな。

- ・意識改革に関しては、例えば調査をしても、回答は 10%程度。意識改革の大きな流れをつくるためには、そういった人たちの声をどう吸い上げて落とし込んでいくか、我々が未来会議の場に参加しているということをどうやって伝えていくのが大切。我々が話しても方向性は見出せないかなと思う。何らかの声を吸い上げないといけない。

- ・明日から意識が変わるなら既にみんな変わっているはず。変えるには、やってくれではなく、別アプローチで行った方がいい。観光について会津でやってほしいことが 5 つくらいあって、まずフリーWi-Fi。インバウンドの人が飲食店など全部繋がるように、市が補助金を出す。看板の多言語表記。それから路線バス。使いやすいように市が補助金を出す。観光サイトの多言語化。レジのキャッシュレス決済対応。そういうところにお金を使った方が会津に来る観光客が増える。テレビなどで会津若松市が取り上げられたりすると、人の意識も変わっていく。中長期的には、そういうアプローチでやられた方がいいのでは。

- ・皆さんの話を伺うと、極論的にやはり「意識変革」が重要だと思う。Wi-Fi とか観光

はあくまで手段なので、それをやってどうなるかという目的がないといけない。人材育成とか意識を変えるところに力を入れていかないと何も始まらない。皆さんが「人の意識が変われば」と言っているので、そこが答えじゃないかなと思う。会議としてのゴールも、例えばスローガンを作るなどして、向かうべきものをつくるとまとまるのではないか。その中で観光とか農業が、後付けで出てくるのではないかと思う。

○ 次回の協議について

- ・「未来会議のこれからの取組」の前に、「会津若松市のこれから取り組むべき課題」というステップが必要。市がこれからどうなっていくべきかを先に議論して、それを踏まえて未来会議で何をやるかを考える方がよいと思う。

- ・皆さんの会津若松市への熱い思いがあって、まだ十分議論できていない印象を受けた。観光や Wi-Fi など議論の中ではっきりと出てきていなかった部分をもう少し掘り下げて、ざっくばらんにもう一度議論してもいいのかなと思う。「何が足りないのか」となぜそうなっているのかを議論してもよいと思う。

- ・10 年後の種は今撒かないと育たないし、今やるべき課題は未来につながるので、中小企業の現状の課題を議論して、その中で長期的に取り組むべきものや、未来の布石になるものもあるので、まとめて議論してもよいのかと思う。例えば中小企業や観光の課題は、各団体で既にやっているという意見も出てくると思うので、情報共有をしながらそういった中小企業の現状を深めていく。

4 その他

5 閉会